

人権だより No. 5

2026. 9. 11 (金)

ことばで誰かを温かくする

9月の全校集会では「ことば」について考えました。4月に6年生が考えてくれた人権全校目標は、

「みんなにやさしい 明るく楽しい蕨田野小学校」

です。6年生は、「みんなが楽しく過ごすために、ポカポカ言葉を使って、チクチク言葉を使わないようにしてほしい」と話してくれました。

1学期、子どもたちからは「ありがとう」「大丈夫?」「一緒にやろう」「すごいね」など、友達を思いやる言葉がたくさん聞かれました。一方で、相手を傷つけてしまう言葉もありました。



そこで9月の集会では、「言葉は人の心にどんな影響を与えるのだろう」ということを考えました。集会では、『水は答えを知っている』という本で紹介されている水の結晶の話を取り上げました。ただし、「言葉をかけることで水の結晶が変化する」ということは、科学的に証明された事実ではありません。だからこそ、子どもたちには、「もし、言葉をかけられているのが水ではなく、人だったら?」と考えてもらいました。人を傷つけるような言葉を自分が言われたら、どんな気持ちになるでしょう。言った人は冗談のつもりでも、その言葉が心に残ることがあります。反対に、「ありがとう」「大丈夫?」「一緒にやろう」「頑張っているね」と言われると、心が温かくなったり、「もう少し頑張ってみよう」と思えたりすることがあります。言葉は目には見えません。でも、人の心を動かす力があります。「この言葉を言われたら、どんな気持ちになるかな?」子どもたちには、言葉を口にする前に、一度立ち止まって、「この言葉を言われたら、相手はどんな気持ちになるかな?」と考えてほしいと伝えました。

そして、もう一つ、「自分の言葉で、誰かを温かくすることはできないかな?」と考えてほしいと伝えました。「ありがとう」「大丈夫?」「一緒にやろう」——。そんな何気ない一言が、誰かの心を温かくすることがあります。「言葉を大切にすること」は、「人を大切にすること」です。一人一人が、自分の言葉で誰かを温かくする。そんな言葉が一つずつ増えていく学校を、みんなでつくっていきたいと考えています。

ご家庭でもぜひ、「今日、誰かに温かい言葉をかけた?」「友達からうれしい言葉をかけてもらった?」など、子どもたちと「ことば」について話してみてください。

